

奈良高専 図書館だより

No. 3

記事

1. 一冊の本との出会い
2. 読書感想文コンクール
3. 図書館統計
4. 新着図書案内

1979年7月 奈良工業高等専門学校 発行

一冊の本との出会い

教務主事 石垣 昭

最近は何書店に立寄ってもカラフルな新刊書が次々と出版され、何から読んだらよいのか目標を持たないと本の洪水に押流されてしまいそうである。こんなに色々な本が選択できるのは一見幸福そうに思えるが、逆に不幸なのかもしれない。私が本校の二年生に相当する旧制中学校五年生の頃は敗戦直後のことでもあり、出版される本は紙不足で微々たるものであった。当時の私は敗戦による社会情勢の急変から将来に対する希望を見失いかけていた。少年時代から航空機関係の技師となることが夢であったのに敗戦により日本では航空機を製造することが禁止されてしまったのである。失意の中で受験勉強にも身が入らず、古い文学全集を読むことで暇をつぶしていた。しかしやはり理工系の学校に進みたいという漠然とした志望は残っており、何をやったらよいのかと迷ううちに友人のT君が彼の兄さんの蔵書から一冊の本を貸してくれた。これがきっかけとなって「有機化学」への道へ進むことになる。この本は岩波全書の一冊で「栄養化学」という小冊子であった。著書の鈴木梅太郎博士はビタミンB（オリザニン）の発見者として有名でその名前は知っていた。二百頁足らずの小冊子であったが、文章は本格的な専門用語が用いられており、化学記号で書かれた複雑な構造式も当時の私にはまるで暗号のように思われた。しかし書かれてある内容を少しは理解できた。私はこの本を夏休み中借りることとし読み始めたが、短期間では理解できそうもないのでこの本を書き写すことに

した。今考えると馬鹿気た思いつきであるが自由に本が手に入らない当時では本を写すことはその本を手に入れる確実な方法であった。クーラーもテレビもない時代、もちろんコピーの器械もない。酷暑の中、夜は停電に悩まされながら難解な学術用語も複雑な化学式も意味のわからぬまま丸写しをする作業が始まった。しかしこの本を写すことは楽しみもあった。今でこそ食料はあり余るほどあるが当時は食糧難の時代で食べざかりの我々は常に飢えていた。たとえそれが記号であっても牛乳中のカゼインとか卵黄中のレシチン、バター中の酪酸、チョコレートのカカオ脂、砂糖すべて空腹にひびく生々しい実感を持つ夢の世界であった。やがて夏休みも過ぎて一冊の本を写し終えた頃には学術用語も大部分が理解できるようになり、暗号のように思えた化学式の謎も自然に理解できるようになっていた。夏休み中受験のための必須科目である英数国漢を勉強しなかったばかりにその後私は大変まわり道をしなければならなかったが、この時の経験がその後の私の進路に大きな影響をおよぼした。一見、無駄な時間を費したようだがこの一冊の本を写すことで日本の代表的な化学者の簡潔な文体を学ぶことができ、後年、技術的な論文を書く場合にも大変役立った。またこの時以来自学自習の楽しみを苦しみと一緒に味わうことになった。図書館に各種の本が揃っている現在、一般教養書、専門書を問わず人生のきっかけとなる本に諸君が出合えることを願ってやまない。

読書感想文 コンクールについて

図書館委員 中西正三

このコンクールの最初の目的は、低調な図書館利用の活発化、そして読書の習慣をつけ、自分の考えをまとめて文章化する訓練をすることなどであった。提案は図書館委員会でなされたが、実行は国語科との共催になった。それと言うのも、課題図書を選定や事前事後の指導などの実際的な作業はほとんどすべて国語科にお願いしなければならないからである。そして国語科の先生方の多大のご尽力によって、このコンクールも一つの行事として定着し、今年で4回目を迎えることになった。

第一の目的の図書館利用の促進について言えば、このコンクールはこれまでよりはいくらか多くの学生諸君に図書館へ足を運んでもらうきっかけにはなっているだろう。しかし読書感想文を課することによって、利用を促進できると考えるのは単純にすぎる。

実際のところ、感想文を書く本は自分で買うだろう。また、一般的に言って、日本の出版物の中で、公立図書館等の購入分は、金額から言えば、5%である(朝日新聞54・6・3)。つまり日本人は自分で読む本はせせと自分で買っているわけである。また現代の若者が置かれている文化状況と彼らの読書傾向を把握しないで、図書館利用率だけを論じて意味がない。

図書館利用の問題はさておいて、このコンクールが着実に成果を上げてきていることは確かである。まず、学生諸君の側から見て、強制された仕事ではあるが、このコンクールは中身のある読書を通して自分をみつめ、まとまった文章を書くよい機会であった、という感想が国語科の先生方のもとへ寄せられている。

文字は便利な道具であるが、他人の気持や考えばかりでなく、単純な物事でも文字を介して理解することは辛抱のいる作業である。読書は、テレビのように見ればわかるというわけにはいかず、自分で文字を読んで意味を理解し、イメージを作りあげなければならない。(出来合いのイメージを手軽に与えるテレビや、漫画と読書の比較については本誌No.2の「劇画と読書」(細井先生)を見られたい)

しかしこの手間のかかる読書によって、自分の目で見、耳で聞き、体で感じられる諸君の狭い世界が空間的、時間的に拡大されただろう。またその世界に対する自分の姿が見えてきただろう。大人になることの一つは、対他的な自分の姿が見えてくることであるが、読書は自己を見る一つの鏡である。読書の効用はこれにとどまらないこと、また読書は万能薬でないことは言うまでもない。

さて、一冊の本を読了して感想文を書くときには、

文章の練習ができたばかりでなく、文章を書くことは考えることであることが痛感できただろう。「書いているうちに考えが変わった」、「書いているとまとまらなくなった」などの言葉は、考えることと書くこととの関係の一端を示している。

あるいは、書くことが沢山あると思っていたのに、いざ作文にとりかかると、2・3行で止まってしまったこともあるかもしれない。この場合は、もともと考えができていなかったからかもしれないし、最後に書くべき結論を先に書いてしまったためかもしれない。

(「思考と行動における言語」(ハヤカワ著 岩波書店)の中のレポートが書けない話を参照) 読書と感想文を書く作業をたどって見たが、授業で指導を受けている学生諸君には蛇足、国語科の先生方には失礼、その段、お赦しを。

さて、感想文を読む側から見ると、コンクールが回を重ねるごとに、文章が上達し、内容も充実してきたことは、国語科の先生方がそのつど発表される適切な講評の通りで、私達は意を強くしている。

読ませてもらう者としてさらに一言つけ加えると、諸君の文章は私達に対する貴重な発言、貴重なコミュニケーションになっている。私達教師は教科で、また担任として学生諸君の有言無言の呼びかけ、問いかけ、抗議に接しているが、感想文の中では、日頃は聞けない諸君の心の声を聞かせてもらっている。このことは諸君のおたがいの間でも同じ事が言えるだろう。

課題図書を選定は、諸君の認識を広く深めるという目的に従って、さまざまな分野の本から次の19冊に決定した。感想文を書くのは一冊についてであるが、読むのは一冊に限らず、他のものにも挑戦してほしい。そして課題図書を読んで、読書の愉しみが感じられたら(ぜひ感じてほしいが)、せいぜい図書館を訪ねてほしい。諸君の知的欲求に答える蔵書が待っている。

選定のために、多くの先生方から良書を教えていただいていたありがとうございました。より適切な選定のために、意見、参考資料などのご協力を今後ともよろしくお願いいたします。

最後に、4・5年生は選択の自由があるので、読書案内の案内を。

1. 現代に生きる古典 堀秀彦 教養文庫
2. 一生の読書案内 C・フェディマン 荒地出版社
3. 文学の常識 中野好夫 角川文庫
4. 日本の名作 小田切進 中公新書
5. 読書案内 上・下 加藤周一編 朝日新聞社
(英語)

課題図書

- | | | |
|---------|-------|-------|
| ・阿Q正伝 | 魯迅 | 角川文庫他 |
| ・二十四の瞳 | 壺井栄 | 角川文庫他 |
| ・九月の空 | 高橋三千綱 | 角川文庫 |
| ・華岡青洲の妻 | 有吉佐和子 | 新潮文庫 |

◦海辺の光景	安岡章太郎	角川文庫他
◦車輪の下	ヘッセ	新潮文庫他
◦あゝ野麦峠	山本茂実	角川文庫
◦黒い雨	井伏鱒二	新潮文庫
◦三四郎	夏目漱石	角川文庫
◦ガリヴァー旅行記	スイフト	新潮文庫
◦死と生の記録	佐藤幸治	講談現新書
◦鐘の中の物理学	朝永振一郎	講談学文庫
◦アラビアのロレンス	中野好夫	岩波新書
◦自動車の社会的費用	宇沢弘文	岩波新書
◦未開の顔・文明の顔	中根千枝	角川文庫
◦コンプレックス	河谷隼雄	岩波新書
◦アラビア遊牧民	本多勝一	講談文庫
◦動物と太陽コンパス	桑原万寿太郎	岩波新書
◦日本人と近代科学	渡辺正雄	岩波新書

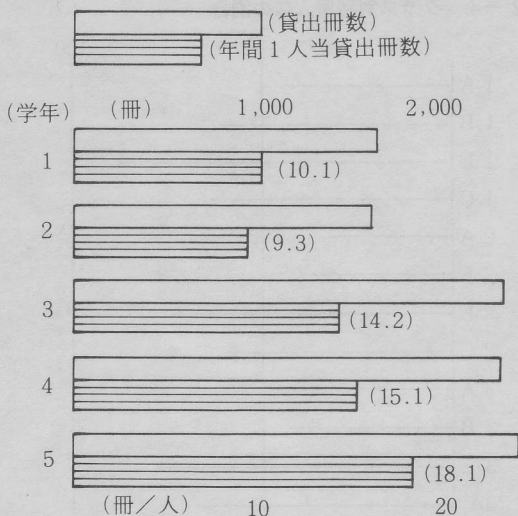


図2 学年別貸出冊数・年間1人当貸出冊数

昭和53年度 図書館統計

図書室

1. はじめに

本図書室も、新館開館以後、ほぼ4年を経過しました。当初、色々心配されたことも少なからずありましたが、図書室の利用も年々増加の傾向を保っています。また、昨年より、この「図書館だより」も発刊され、PR活動も大きく改善されました。

今号では、昨年度の利用状況をお知らせして、今後の図書室発展の一助にしたいと思います。

2. 利用統計

2-1. 貸出冊数の推移

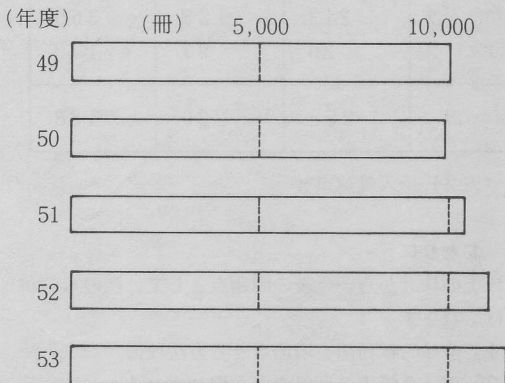


図1 貸出冊数の推移

最近5年間の貸出冊数は、(図1)のとおりです。この図を見て気がつくことは、50年度以降、毎年約500冊、貸出冊数が増加していることです。50年度は、新館が開館した年ですので、それ以後は、図書室の利用が確実に増加していると言えます。

2-2. 学年別貸出冊数、および、クラス別貸出冊数

昨年度の学年別貸出冊数、および、年間1人当貸出冊数は、(図2)のとおりです。1・2年生のグループと3・4・5年生のグループでは、貸出冊数の差がかなりあります。今後、1・2年生の貸出が増加するよう希望しています。

2-3. 分類別貸出冊数

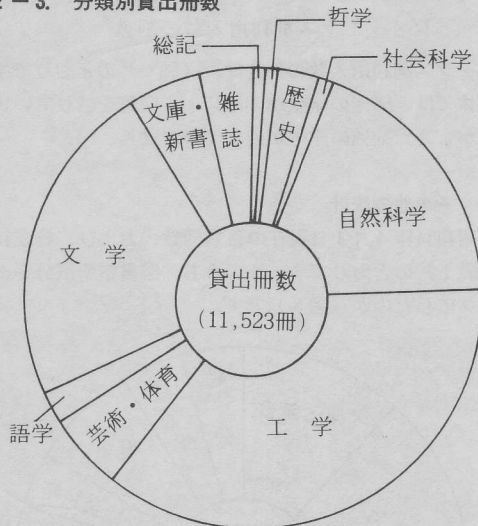


図3 分類別貸出冊数

昨年度の貸出冊数を分類別に見ると(図3)のとおりです。やはり、「工学」、および、「自然科学」が多く、この2部門で50%を超えます。次に、「文学」がかなり多く、その他の部門は、全て加えても22%にしかありません。貸出のこのアンバランスを是正するために、この5年間、「工学」「自然科学」以外の部門の図書に予算を増加して購入してきましたが、未だその効果は現われていません。

2-4. クラス別利用人数の割合

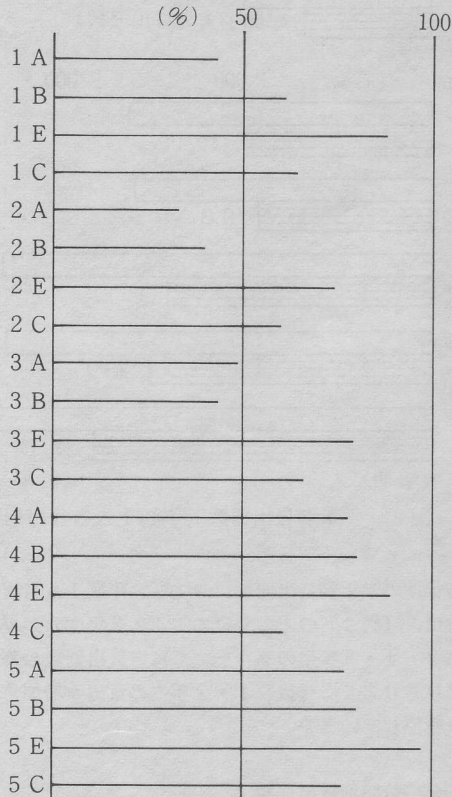


図4 クラス別利用人数の割合

クラス別利用人数の割合は、(図4)のとおりです。全体では、66%の学生が1回以上、図書を借りていますが、まだ約1/3の学生が借りていません。

3. その他の統計

昭和54年4月1日現在の蔵書冊数、および、構成は、(表1)のとおりです。そのうち、図書室所蔵分をグラフにしたのが(図5)です。

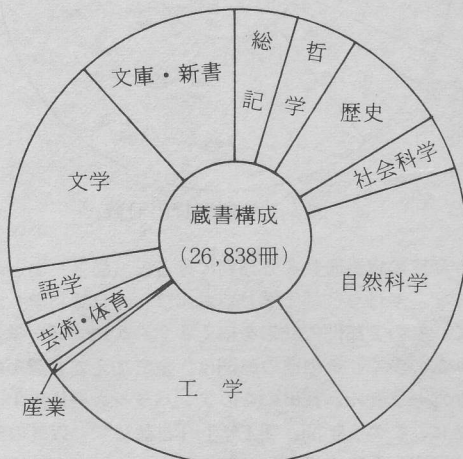


図5 蔵書構成 (図書室分)

	図書室	研究室	合計
総記	1,209	220	1,429
哲学	1,162	174	1,336
歴史	1,997	938	2,935
社会科学	1,066	366	1,432
自然科学	5,464	3,579	9,043
工学	6,520	3,921	10,441
産業	83	29	112
芸術体育	955	545	1,500
語学	1,064	1,172	2,236
文学	4,222	2,131	6,353
文庫新書	3,096	1	3,097
合計	26,838	13,076	39,914

(表1) 蔵書構成

図書室には、現在、約2万7千冊の図書(未製本雑誌を除く)があります。そのうちでも、やはり「工学」、「自然科学」、および、「文学」各部門が圧倒的に多数を占めますが、その他の図書も約40%を占め、「面白そうな本」が多数ありますから、今後の利用を希望しています。

昭和54年4月1日現在、図書室で受け入れている雑誌は、(表2)のとおりです。

	図書室	研究室	合計
和文	242	123	365
欧文	26	97	123
計	268	220	488

(表2) 受入雑誌点数

4. おわりに

以上の統計から、今後の問題点として、次のものがあげられます。

- 1) 全体的に利用を増加させる方法とは何か。
- 2) 1・2年生の利用をどう増加させるか。
- 3) 「工学」、「自然科学」、「文学」以外の部門の図書をどう利用させるか。
- 4) 全ての学生を図書室に来させるためには、どうすれば良いか。
- 5) 図書室を使用した、新しい利用の方法には、どんなものがあるか。

以上の問題を解決し、今後さらに活発に図書室が利用されることを願って、報告を終ります。

新 着 図 書 案 内

< 総 記 >

奈良県立奈良図書館 郷土資料目録 同図書館
 現代用語の基礎知識 79年版 自由国民社
 国民百科事典14・15 平凡社
 世界の博物館11・13・15・17 講談社
 ちくま少年図書館40・41 筑摩

< 哲学・宗教 >

日本思想大系 54 吉田松陰 岩波
 真創世記、天上編 高橋佳子 祥伝社

< 歴史・地理 >

国史大辞典1 吉川弘文館
 斑鳩町史、本編、史料編 斑鳩町役場
 奈良盆地の景観と変遷 千田正美 柳原書店
 奈良県吉野郡史料 上、中、下 吉野郡市役所 名著出版
 大淀町史 大淀町役場
 下北山村史 木村博一他 下北山村役場
 現代日本執筆者大事典2・3 佃実夫他 日外アソシエーツ
 角川日本地名大辞典 13 東京都 角川
 紀行全集世界体験5・9 河出
 アルパインガイド1-40 山溪
 アルパインガイド 別冊1-7 山溪
 Yammini 1-22 山溪
 北極点グリーンランド単独行 植村直己 文芸春秋

< 社会科学 >

文化と国土設計 日本文化会議 P H P
 ロシア・マルクス主義の創生と展開に関する一考察
 荒牧一利 著者
 経済記事の見方 日経
 不二越五十年史 KK不二越
 画像技術の35年 大日本スクリーン製造
 In the spirit of enterprise from the Rolex Awards
 Gregory B. Stone Freeman
 四十年のあゆみ 千住金属工業 日刊工業
 証券百年史 阿部康二他 日経
 図説日本の公共債 森 卓也 財経詳報社
 図説日本の証券市場 小山昭蔵 財経詳報社
 近畿大学工学部二十周年記念論文集 近畿大学工学部

障害児教育百年奈良県記念誌、実践録

障害児教育百年奈良県記念会 明新社
 世界の民族2・14・18 平凡社

< 芸 術 >

原色現代日本の美術8・13 小学館
 日本美術全集2・19 学研
 日本の美 現代日本写真全集2・8 集英社
 西洋美術史4 グラフィック
 週刊朝日百科 世界の美術2 朝日新聞
 大和古寺大観2 岩波
 愛蔵版日本の名画1-12 講談社
 音楽のある風景 服部公一 朝日新聞
 フランス映画旅行 池波正太郎 文芸春秋

< 体 育 >

ファミリースポーツ・ガイド 松井秀治 大修館
 日本人の体力 船川 他 杏林書院
 写真と図解によるスポーツトレーニング体操
 松延 博 大修館
 四季のランニング 山西哲郎 不味堂
 スポーツ・マッサージ 高橋華王 遊戯社
 スポーツの生理学 A. N. Krestovnikov 不味堂
 白い妖精ナディア・コマネチ ベースボール・マガジン社
 日本スキー教室 全日本スキー連盟 スキージャーナル
 スキーと安全、けがを防ごう
 全日本スキー連盟 スキージャーナル

< 語 学 >

言葉の海へ 高田 宏 新潮社
 漫画の描き方 根本 進 明治書院
 小説の書き方 野間 宏 明治書院
 正しい話し方 松野善弘 明治書院

< 文 学 >

世界の文学7・29・30 集英社
 図説日本の古典1・20 集英社
 日本の詩歌1・5・10・14 中央公論
 詩集べるしゅろん 栗田詮吉 啓文社
 悪女について 有吉佐和子 新潮社
 荒らぶる魂 西村寿行 文芸春秋

ばくが猫語を話せるわけ 庄司 薫
 ばくらの時代 栗本 薫
 文化の転回 守田志郎
 沈黙の岬 田中光二
 超飛行船PZ-1翔ぶ 高斎 正
 竜 児 津島佑子
 大追走(ビッグ・チェイス) 田中光二
 復讐四十七士 柴田錬三郎
 不倫岬 笹沢左保
 冬の雅歌 皆川博子
 贋作ゲーム 山田正紀
 五番棟の梅 高橋揆一郎
 春の嵐 池波正太郎
 春の鐘 上・下 立原正秋
 彼岸に住ける者よ 横尾忠則
 日ノ影村の一族 五木寛之
 火はわが胸中にあり 沢地久枝
 一絃の琴 宮尾登美子
 怒りの白き都 西村寿行
 深重の海 津本 陽
 仮構としての現代 加賀乙彦
 神様、なぜ愛にも国境があるの 草鹿宏
 閻 閻 夏樹静子
 血 痕 鎌田 慧
 嫌悪の狙撃者 石原慎太郎
 権力の朝 和久峻三
 企業生贄 広瀬仁紀
 きまぐれ体験紀行 星 新一
 北の怒涛 谷 恒生
 孤独な夜のココア 田辺聖子
 草と草との距離 光岡 明
 凶 鬼 斎藤 栄
 京の川 岡部伊都子
 京の里 岡部伊都子
 またまた ちょっとキザですが世界を翔ぶ 磯村尚徳
 峰の記憶 渡辺淳一
 水の肌 松本清張
 麦熟るる日に 中野孝次
 娘と私の時間 佐藤愛子
 21人の視点 石沢英太郎
 日本文芸推理12選 Ellery Queen
 日本傑作推理12選 第1集 E. Queen
 日本傑作推理12選 1・2 E. Queen
 日本占領 1 児島 襄
 伸 予 高橋揆一郎
 鑿(のみ) 金 鶴泳
 女の幸福 平岩弓枝
 大蔵省銀行局査察 広瀬仁紀
 セーラー服と機関銃 赤川次郎

中央公論
 講談社
 朝日新聞
 文芸春秋
 祥伝社
 河出
 光文社
 文芸春秋
 光文社
 徳間
 文芸春秋
 河出
 新潮社
 新潮社
 文芸春秋
 文芸春秋
 角川
 講談社
 徳間
 新潮社
 講談社
 集英社
 文芸春秋
 文芸春秋
 中央公論
 主婦と生活
 主婦と生活
 講談社
 集英社
 文芸春秋
 講談社
 講談社
 講談社
 講談社
 文芸春秋
 新潮社
 河出
 集英社
 光文社
 光文社
 光文社
 文芸春秋
 文芸春秋
 文芸春秋
 徳間
 主婦と生活

昨日の花
 珊瑚
 洒落た関係
 七人の軍隊
 四季の記憶
 寝台特急殺人事件
 蒼茫の大地滅ぶ上、下
 狙撃者
 素直な戦士たち
 テルロの決算
 途方にくれて
 つわもの賦
 美しい死刑
 わが世代昭和十三年生まれ
 別れた友
 闇に潜みしは誰ぞ
 柔らかい時計
 酔っぱらい読本、壱
 夜の残り
 夕暮まで
 日本の民話 28-37、別巻
 苦行、獄中におけるわが闘い
 グッバイガール
 ホロコースト、戦争と家族上・下
 十二夜殺人事件
 世界傑作推理12選&ONE
 野望の血
 乱れたベット
 非線形格子力学
 例題演習水力学
 水力学例題演習
 大学演習工業熱力学
 基礎力学演習工業熱力学
 工業熱力学演習
 熱応力
 基礎力学演習 材料力学
 材料力学演習
 材料力学入門演習
 わかる弾性学
 画像エレクトロニクス講座 1-10
 第15回情報科学技術研究集会 発表論文集
 情報検索の原理と実際:化学情報を例にとって
 手づくりコンピュータ:マイコンキット活用ブック
 フォートラン
 フォートラン例題演習

結城昌治
 新田次郎
 青木雨彦
 草野唯雄
 円地文子
 西村京太郎
 西村寿行
 谷 克二
 城山三郎
 沢木耕太郎
 立松和平
 永井路子
 佐野 洋
 飯島耕一
 西村寿行
 荒巻義雄
 吉行淳之介
 川上宗薫
 吉行淳之介
 金芝河
 R. Crossbach
 G. Green
 M. Gilbert
 E. Queen
 L. Sande
 F. Sagan
 戸田盛和
 笠原英司
 竹中利夫
 谷下市松
 宮部英也
 小林恒和
 竹内洋一郎
 宮本 博他
 奥村俊久他
 中沢 一
 竹内洋一郎他
 丸善
 丸善
 工業調査会
 コロナ
 コロナ
 コロナ
 コロナ
 コロナ

朝日新聞
 新潮社
 ダイヤモンド
 主婦と生活
 文芸春秋
 光文社
 講談社
 角川
 新潮社
 文芸春秋
 集英社
 文芸春秋
 講談社
 河出
 中央公論
 集英社
 徳間
 講談社
 集英社
 新潮社
 未来社
 中央公論
 二見書房
 パシフィカ
 集英社
 光文社
 集英社
 新潮社
 岩波
 産業図書
 コロナ
 裳華房
 実教出版
 産業図書
 日新出版
 実教出版
 学芸出版
 産業図書
 日新出版
 コロナ
 JICST
 丸善
 工業調査会
 コロナ
 コロナ

<工学共通>

MELCOM 9100、Fortan A 説明書 三菱電気
 プログラミングの基礎 藤野精一 朝倉
 システム工学入門：決定論的モデル Tung Au 他 学献社
 数値制御、基礎とサーボ技術 金子敏夫 オーム
 技術の歴史6・7 チャールズ・シンガー 他 筑摩
 エンジニアリング・サイエンス講座2 共立

<機械工学>

機械設計の基礎 小野敏郎 他 日新出版

<金属工学>

Metals hand book; 9th ed., vol. 1 A. M. S.
 溶接全書4・14・20 産報

<電気工学>

基礎電気工学 島村 敏 理工学社
 基礎電気工学 横田成昭 他 日刊工業
 初歩の電気工学 沢 荘平 理工学社
 電気工学標準問題と解説 茂木 晃 技報堂
 電気理論・電気測定の計算演習 電気問題研究会 電気書院
 電気磁気・電気回路基本問題の研究：電気回路編
 村上正夫 近代科学社
 基礎交流理論演習 佐藤瑞穂 培風館
 高電圧現象 大重 力 他 森北
 電気計測 森崎重夫 他 コロナ
 21世紀への展望：国際通信未来像 国際電電
 エレクトロニクスはいかにして創られたか
 岩田倫典 日刊工業
 初学者のための電子工学 片山満澄 理工学社
 半導体物性Ⅰ・Ⅱ 犬石嘉雄 朝倉
 サイリスタ実用便覧 山村 昌他 オーム
 レーザー、その科学技術にもたらした
 日本物理学会 丸善

<化学・化学工学>

チャレンジ オブ ケミストリー A. Horrigan 広川
 化学ハンドブック オーム
 チャート式化学計算問題(1・2) 小林正光 数研出版
 Chemical Abstractsの使い方 笹本光雄 地人書館
 頻度順 化学計算問題 大野 正他 教育社
 化学標準問題と解説 荒木綱男 他 技報社
 化学Ⅰ・Ⅱ計算問題の解き方 中村正 旺文社
 化学計算 島原健三 三共
 化学計算・理工系学生・技術者 島原健三 三共
 化学計算必携 北出健治 産業図書
 化学計算問題の新研究 久保輝一郎 洛陽社

化学計算問題の新研究 久保輝一郎 洛陽社
 化学計算の解釈研究 島原健三 他 三共
 高校A級化学計算問題集 表 美守 昇龍堂
 高校化学演習 竹林保次 培風館
 明治化学の開拓者 塚原徳三 三省堂
 モル法による化学・Ⅰ・Ⅱ 佐野俊介 研数書院
 精講化学 塩見賢吾 学生社
 詳解化学計算問題の解き方 表 美守 昇龍堂
 物理化学 演習と解法、上 越山季一 内田老鶴圃
 物理化学演習 宮崎正蔵 槇書店
 物理化学演習 荻野一善 他 東京化学同人
 物理化学演習 山本大二郎 産業図書
 物理化学基本問題の解き方 藤代亮一 他 東京化学同人
 物理化学公式集 宮崎正蔵 槇書店
 演習物理化学 阪上信次 共立
 化学入門としての基礎物理化学 喜多英明 学術図書
 S I単位と物理・化学量 M. L. McClashan 化学同人
 化学実験事典 山本大二郎 他 講談社
 新実験化学講座21 日本化学会 丸善
 分析業務の管理と技術 浜口 博 産業図書
 分析化学実験 新版 日本分析化学会北海道支部 化学同人
 ガスクロマトグラフィの実際 第2版 松隅昭 東京化学同人
 放射化分析の実験 橋本芳一 講談社
 考え方解き方分析化学演習 柳田泰之 オーム
 基本定量分析 改訂版 阿藤 質 培風館
 機器分析実験法上・下 日本分析化学会近畿支部 化学同人
 無機半微量分析 第2版 松浦二郎 他 東京化学同人
 無機化学 上・下 F. A. Cotton 培風館
 有機化学 上・中・下 N. L. Allinger 東京化学同人
 有機化学、基礎と応用 赤堀禎利 広川
 有機化学の基礎 R. S. Monson 他 東京化学同人
 有機化合物の構造決定法 D. J. Past 他 東京化学同人
 生体高分子概論 今堀和友 培風館
 Encyclopedia of chemical technology vol. 3 Wiley
 高分子加工工学 I. M. McKelvey 現代工学社

<その他の工学・産業>

公害防止管理者試験問題、騒音・粉じん・主任管理者編
 国家試験対策研究部 日東書院
 公害防止管理者試験問題と解説：粉じん・騒音・振動
 資格試験指導会 日東書院
 大図説世界の建築 J. J. Norwich 小学館
 小麦から小麦粉へ アメリカ小麦食品普及研究所
 製粉振興会

<自然科学>

自伝ノート A. Einstein 東京図書
 逆説の勝利 I. L. Radunskaja 東京図書

数学パズルの世界	藤村幸三郎他	講談社	波 涛	井上 靖	角川
岩波講座現代物理学の基礎 第2版9・10	岩波		傾ける海	井上 靖	角川
日本の物理学史 上	日本物理学会	東海大学	あすなる物語	井上 靖	新潮社
精講物理	砂川重信	学生社	黒い蝶	井上 靖	新潮社
電磁気学演習	熊谷寛夫他	朝倉	青春の蹉跌	石川達三	新潮社
電磁気学演習	熊谷寛夫他	朝倉	青 春	伊藤 整	新潮社
基礎電磁気学演習	佐藤瑞穂	培風館	蒼ざめた馬を見よ	五木寛之	文芸春秋
固体物理 上・下	浜口智尋	丸善	ゴキブリの歌	五木寛之	角川
ホワイト・ホール、宇宙の噴出口 J. Gribbin		講談社	こがね虫たちの夜	五木寛之	講談社
岩波講座 地球科学8・10・13		岩波	海を見ていたジョニー	五木寛之	講談社
微生物学実験法 微生物研究法懇談会		講談社	風に吹かれて	五木寛之	新潮社
原色日本羊歯植物図鑑	田川基二	保育社	にっぽん三銃士 上・下	五木寛之	新潮社
日本帰化植物図鑑	長田武正	北隆館	内灘夫人	五木寛之	新潮社
日本植物誌：顕花編・シダ編 大井次三郎		至文堂	奇病連盟	北 杜夫	新潮社
新日本植物図鑑	牧野富太郎	北隆館	考えるヒント	小林秀雄	文芸春秋
薬用植物分類学	刈米達夫他	広川	悪 名	今 東光	新潮社
鳥と人間	W. H. Hudson	講談社	愛の渇き	三島由紀夫	新潮社

<文庫・新書>

七つのダイヤル	A. Christie	東京創元社	仮面の告白	三島由紀夫	新潮社
パーカー・パインの事件簿	A. Christie	東京創元社	獣の戯れ	三島由紀夫	新潮社
グッド・バイ	太宰 治	新潮社	禁 色	三島由紀夫	新潮社
新ハムレット	太宰 治	新潮社	金閣寺	三島由紀夫	新潮社
きりぎりす	太宰 治	新潮社	真夏の死	三島由紀夫	新潮社
二十世紀旗手	太宰 治	新潮社	音 楽	三島由紀夫	新潮社
パンドラの匣	太宰 治	新潮社	潮 騒	三島由紀夫	新潮社
ヴィヨンの妻	太宰 治	講談社	獅子・孔雀	三島由紀夫	新潮社
孤独な魂	H. Hesse	角川	盗 賊	三島由紀夫	新潮社
ガラス玉演戯上・下	H. Hesse	新潮	美しい星	三島由紀夫	新潮社
クヌルプ	H. Hesse	新潮社	分水嶺	森村誠一	角川
郷 愁	H. Hesse	新潮社	大都会	森村誠一	角川
ちぐはぐな部品	星 新一	角川	腐蝕の構造	森村誠一	角川
人民は弱し官史は強し	星 新一	角川	銀の虚城	森村誠一	角川
きまぐれロボット	星 新一	角川	虚無の道標	森村誠一	角川
ノックの音が	星 新一	講談社	夢の虐殺	森村誠一	角川
声の網	星 新一	講談社	虚構の空路	森村誠一	講談社
なりそこない王子	星 新一	講談社	密閉山脈	森村誠一	講談社
エヌ氏の遊園地	星 新一	講談社	鉄筋の畜舎	森村誠一	講談社
おかしな先祖	星 新一	講談社	季綾・山月記	中島 敦	新潮社
おみそれ社会	星 新一	講談社	芙蓉の人	新田次郎	文芸春秋
盗賊会社	星 新一	講談社	チンネの裁き・消えたシュプール	新田次郎	新潮社
黒い雨	井伏鱒二	新潮社	岩壁の掟・偽りの快晴	新田次郎	新潮社
多基古村	井伏鱒二	新潮社	強力伝・孤島	新田次郎	新潮社
遥拝隊長・本日休診	井伏鱒二	新潮	縦走路	新田次郎	新潮社
青葉繁れる	井上ひさし	文芸春秋	孤高の人 上・下	新田次郎	新潮社
手鎖心中	井上ひさし	文芸春秋	蒼水・神々の岩壁	新田次郎	新潮社
四十一番の少年	井上ひさし	文芸春秋	アメリカ銃の謎	E. Queen	東京創元社
ブンとファン	井上ひさし	新潮社	中途の家	E. Queen	東京創元社
表裏源内蛙合戦	井上ひさし	新潮社	エジプト十字架の謎	E. Queen	東京創元社
			ニッポン極鳥の謎	E. Queen	東京創元社
			レーン最後の事件	E. Queen	東京創元社